

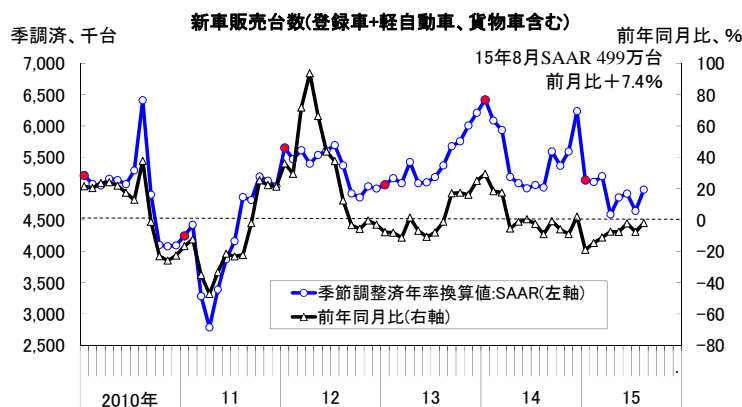
国内新車販売統計（2015年8月）

新車需要は引き続き低調。国内新車販売は5か月連続で年率500万台割れ

軽自動車需要の低迷が国内新車販売の足を引っ張っている

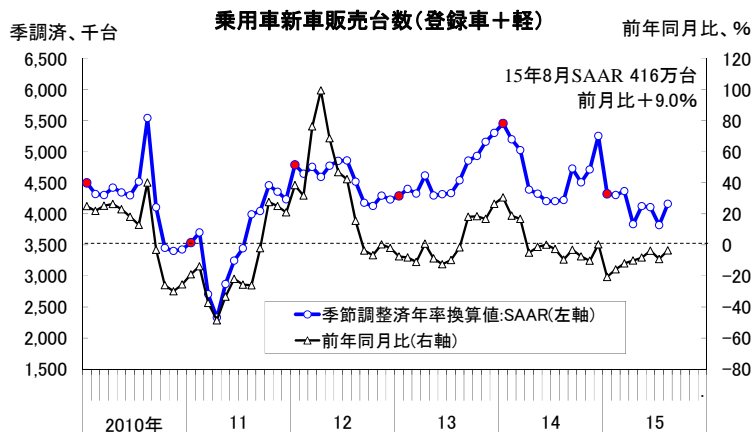
- ・ 9月1日発表の8月の国内新車販売台数（登録車 + 軽自動車、貨物車含む）は前年同月比1.9%減と8か月連続の前年割れとなったが、季調済年率換算値(X-12-ARIMAにて当社試算、以下 SAAR)でみた8月の販売台数は前月比7.4%増の499万台と2か月ぶりに増加に転じた。もっとも、新車販売台数は5か月連続で年率500万台を下回っており、自動車需要の低迷が続いている（図表1）。
- ・ 内訳をみると、8月の乗用車（登録車 + 軽）販売台数のSAARは前月比9.0%増の416万台となった（図表2）。このうち、登録乗用車は同9.6%増の286万台と増加した。4月からのエコカー減税の基準厳格化が足かせとなり、販売不振が続いていたが、8月の販売増加は堅調であった。今後、この増加が続くかどうかには要注意である（図表3）。
- ・ 一方で、軽乗用車の販売低迷は続いている。8月の軽乗用車販売台数のSAARは前月比で7.8%増の130万台となったが、昨年度実績（176万台）を大きく下回る水準で低迷が続いている（図表4）。軽自動車市場の苦境が続いている。
- ・ 貨物車（普通 + 小型トラック）販売台数の8月のSAARも前月比2.2%増の41万台と増加した（図表5）。しかし、3か月後方移動平均値は5か月連続の減少となっている。都市圏の活発な建設投資を背景とした旺盛な受注が続く一方で、東日本の復興関連投資に関わるトラック受注が減速し、足を引っ張っている。
- ・ 後述するが、8月27日発表の7月の生産指数は依然として厳しい内容であった。自動車メーカーが乗用車の減産を行ったことで在庫は減少したが、小型車と軽の在庫が過剰である状況に変わりはない。自動車生産に対する下方圧力が強い状況が続く見通しである。
- ・ 国内自動車流通市場で注目されている中古乗用車輸出市場は、7月の輸出台数（SAAR）が103万台と前月比で減少したものの、年率100万台を超える高い水準を維持している。中でも成長著しいスリランカ向けの輸出市場は引き続き堅調に増加し、中古輸出市場全体の市況改善に貢献している。同国向け中古軽乗用車の輸出は7月も好調で、過去最高記録を更新するとともに、同月の輸出台数は28府県の新車販売を超える規模にまで成長した。

図表1 国内新車販売のSAARは増加したが年率500万台を下回る状況が続く



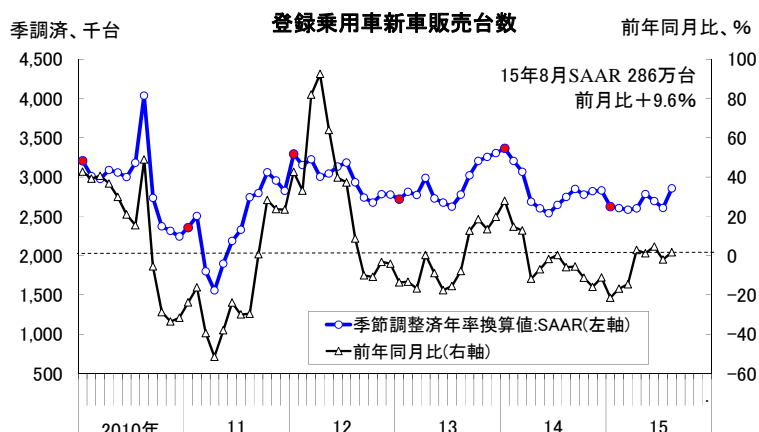
注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所：日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会より作成

図表2 乗用車販売(SAAR)は3か月ぶりに増加



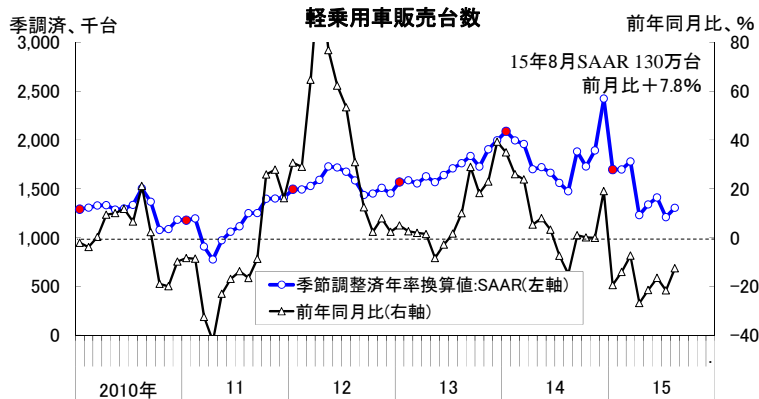
注1: 赤塗リマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 日本自動車販売協会連合会及び全国軽自動車協会連合会より作成

図表3 登録乗用車の販売は大きく増加



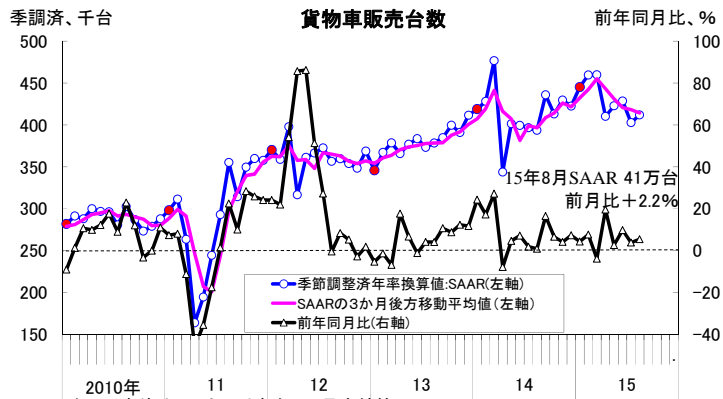
注1: 赤塗リマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 日本自動車販売協会連合会より作成

図表4 軽乗用車販売も増加したが力強さに欠ける



注1: 赤塗リマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 全国軽自動車協会連合会より作成

図表5 貨物車販売は減少トレンド続く



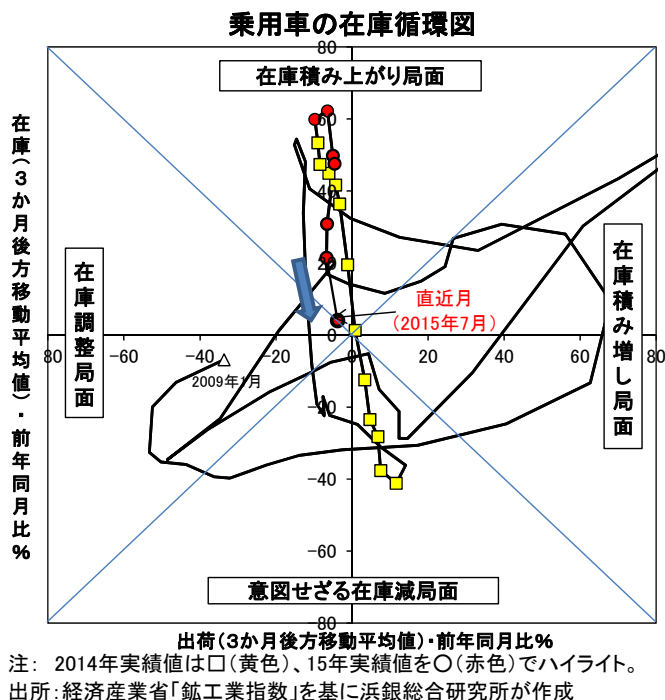
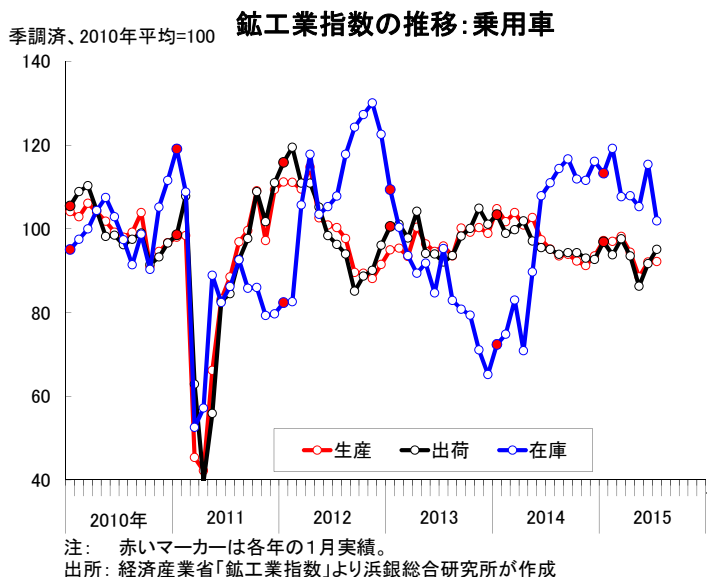
注1: 赤塗リマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 日本自動車販売協会連合会より作成

7月の乗用車在庫は減少したが依然過剰で、生産調整圧力が強い状況が続く

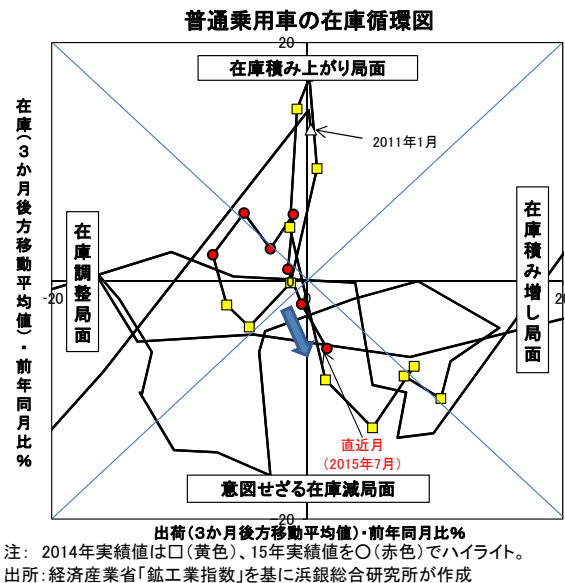
- 7月の鉱工業指数（速報値）を見ると、自動車メーカーは6月の増産から一転し、7月は減産によって在庫を削減することに努めた。しかし、在庫循環図上では^(注)、乗用車生産は依然として「在庫調整局面」にあり、過剰在庫を抱える状況が続いている（図表6）。
- 図表7～9では鉱工業指数から、普通、小型、軽乗用車別の各指数（生産、出荷、在庫の推移と在庫循環図を示している。普通乗用車の在庫（季調値）は7月に減少した。増産のアクセルを弱めた一方、出荷の伸びが堅調であったことから、在庫調整が進んだ。6月に続き7月も生産は「意図せざる在庫減局面」にあり、普通乗用車の在庫水準は健全である。
- 7月は小型乗用車の在庫も減少した。普通乗用車同様に、同月に増産のアクセルを緩めた結果、出荷の伸びが生産の伸びを上回ったためである。もっとも、生産は「在庫積み上がり局面」から「在庫調整局面」に移行したに過ぎず、在庫水準は依然として過剰である。
- 目下、国内自動車生産における最大の懸念材料は軽乗用車の過剰在庫問題であるが、7月の在庫は6月から更に増加し、需給バランスはより一層悪化した。軽乗用車の生産は依然として「在庫積み上がり局面」にある。完成車メーカーは7月に軽乗用車の減産を行ったものの、出荷の減少が生産の減少を上回ったために在庫が増加した。軽自動車需要の低迷は深刻である。軽自動車メーカーは一層の減産が必要であり、国内軽自動車市場の収益性が早期に回復すると見込むのは難しい状況が続いている。

(注) 新モデルが発売されるタイミングで乗用車の出荷と在庫は大きく振れるため、各月の出荷・在庫（原数値）を3か月後方移動平均で均してから前年同月比と比較し、それぞれ変化率をX-軸（出荷）とY-軸（在庫）でプロットしている。

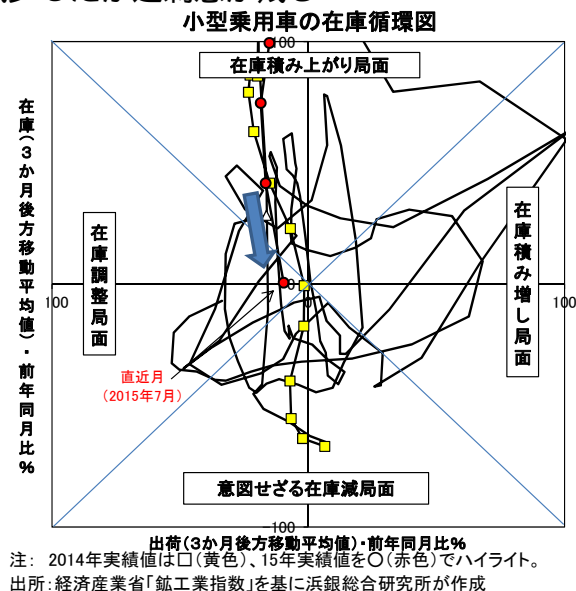
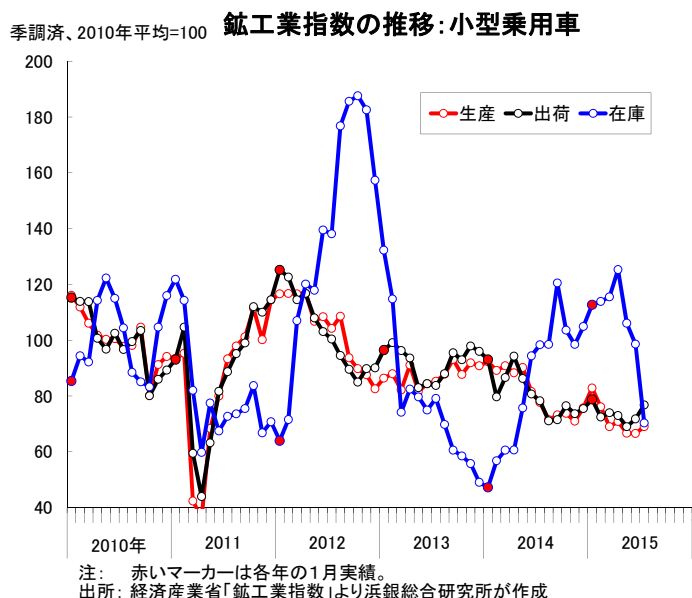
図表6 乗用車在庫は増加し依然過剰な状況：「在庫積み上がり局面」が続く



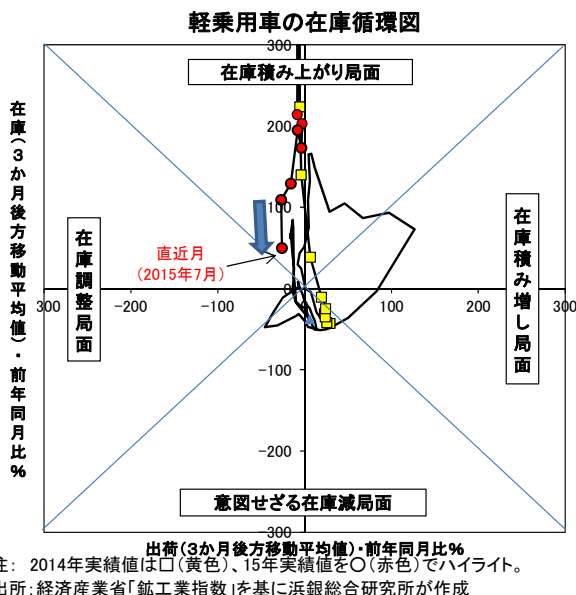
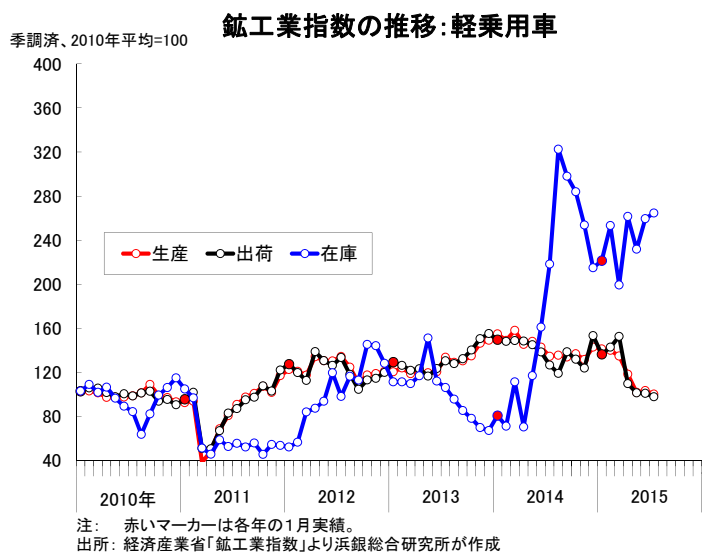
図表7 普通乗用車在庫は減少：在庫水準は健全



図表8 小型乗用車在庫も減少したが過剰感が残る



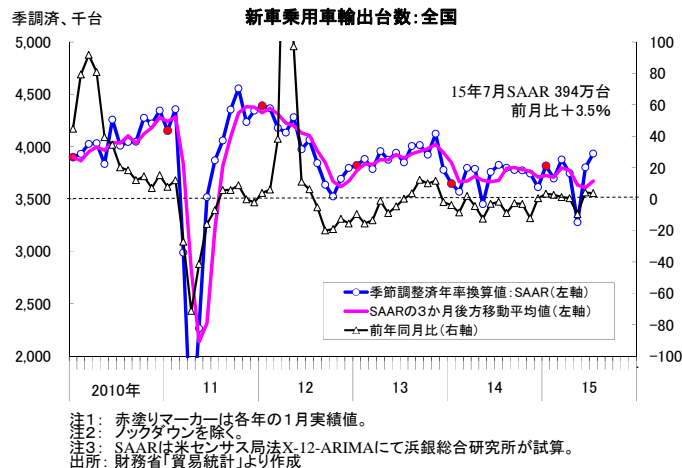
図表9 軽乗用車在庫は2か月連続で増加し、在庫削減が一向に進まない



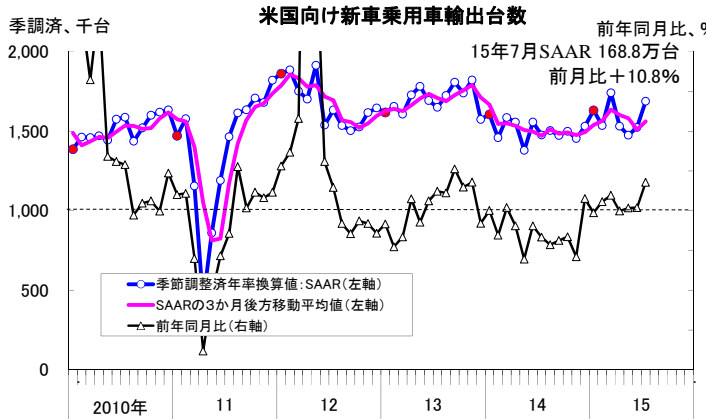
新車乗用車輸出は7月も増加したが、中国向け輸出での下押し圧力が強く、楽観は禁物

- ・ 8月27日に公表された7月の乗用車輸出台数（軽乗用車と中古車を除く）はSAARで前月比3.5%増の394万台と2か月連続で増加した（図表10）。しかし、3か月後方移動平均でみるトレンドを大きく押し上げるまでの力強さには欠ける状況である。
- ・ 主要仕向地別で見ると（図表11）、中国向けの輸出は6月、7月と2か月連続で持ち直したが、この増勢が今後も継続するとは考え難い。なぜなら、中国乗用車市場の失速が続いており、流通在庫が過剰な水準にあるからだ。中国汽车流通協会（CADA）が公表した、7月の在庫早期警戒指数（VIA: Vehicle Inventory Alert）は53.4と、13年1月の統計公表以来3番目に高かった6月の水準（64.6）からは低下したものの、依然として過剰である（図表12棒グラフ）。VIA指数は中国全土の新車ディーラーから集めた、流通在庫の過剰感を指数化したものであり、50を上回ると在庫は過剰であると判断する。なお、新車ディーラー経由での自動車販売は主に乗用車であることから、このVIA指数の動きは乗用車の流通在庫の動きを表していると言える。中国市場での流通在庫は、メーカーでの生産調整やディーラーでの積極販売により、過去最高となった4月以降は減少基調にあったが、6月は反転急増していた。
- ・ 中国市場で過剰在庫が続いている背景には、乗用車新車販売の失速がある。全国乗用車市場情報連席会（CPCA）が発表した、7月の乗用車小売台数（日本の新車登録台数に相当）は前年同月比2.5%減と、2013年2月以来28か月振りに前年割れした6月（同1.0%減）に続き、2か月連続の前年割れとなった（図表12の青い折れ線）。足元の株価急落による逆資産効果により、自動車販売も急速に落ち込んでいるという声が多い。足元の過剰在庫を払しょくするため、現地生産に加え日本でも減産圧力が強い状況が続くことから、中国向け輸出が減少に転じ、輸出の足かせとなるリスクに要警戒である。
- ・ 日本にとって最大の輸出先である米国の新車販売台数（SAAR）は、1,700万台近辺の高水準で一進一退の推移となっており、頭打ち感がある（図表13）。中国経済の失速により、米国政策金利が引き上げられるタイミングが不透明となっているが、金利引き上げは自動車販売の下押し要因となるため、足元の米国向け輸出が今後も増加し続けると期待するのは禁物である。
- ・ なお、先進国向けでは欧州向け輸出も7月は大きく増加したが、欧州の自動車市場は販売台数こそ堅調に増加しているものの、ドイツ市場などで値下げ販売やフリート（大口法人向け）販売が増加したことが背景にあるという声もあり、足元の輸出増加が今後も続くとは判断するのは時期尚早である。

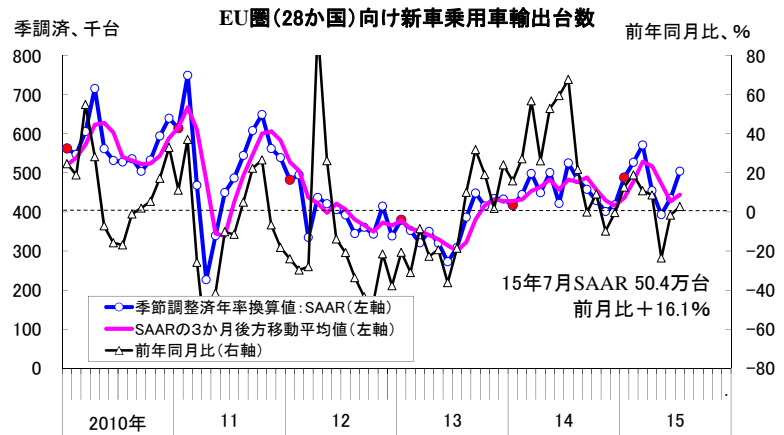
図表10 7月の乗用車輸出は増加したが、中国向け輸出に対する下押し圧力は強く、楽観は禁物



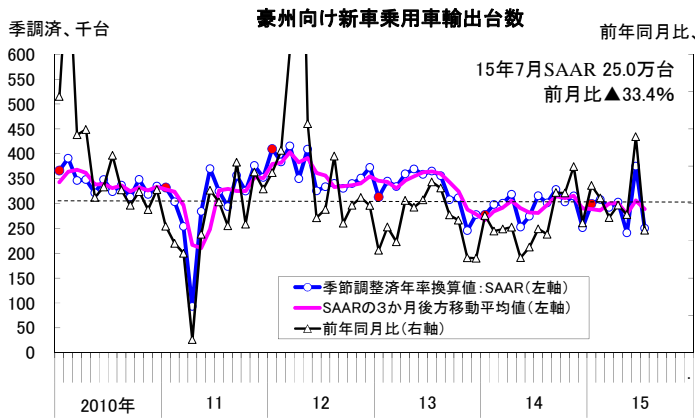
図表 11 ASEAN・豪州向け以外で輸出は増加したが、市場が急減速している中国向け反動減リスクに要警戒



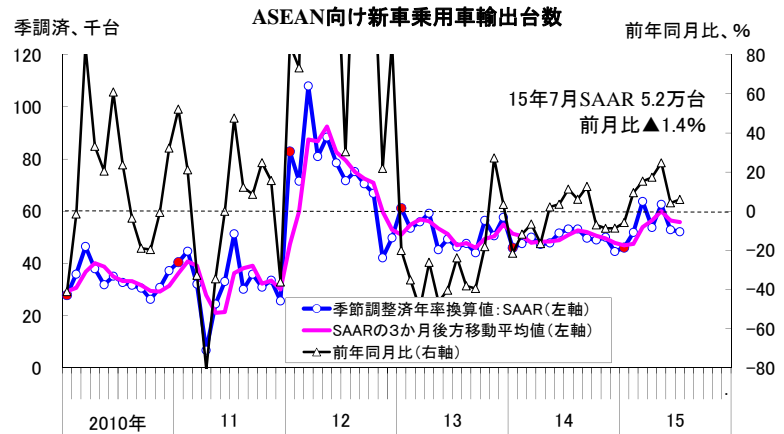
注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2：ノックダウンを除く。
 注3：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所：財務省「貿易統計」より作成



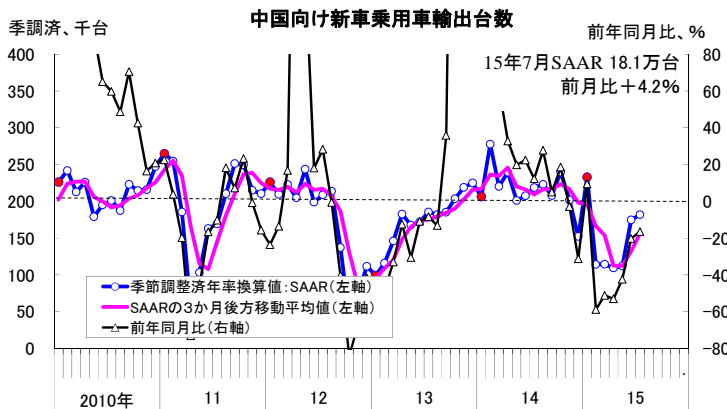
注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2：ノックダウンを除く。
 注3：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所：財務省「貿易統計」より作成



注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2：ノックダウンを除く。
 注3：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所：財務省「貿易統計」より作成

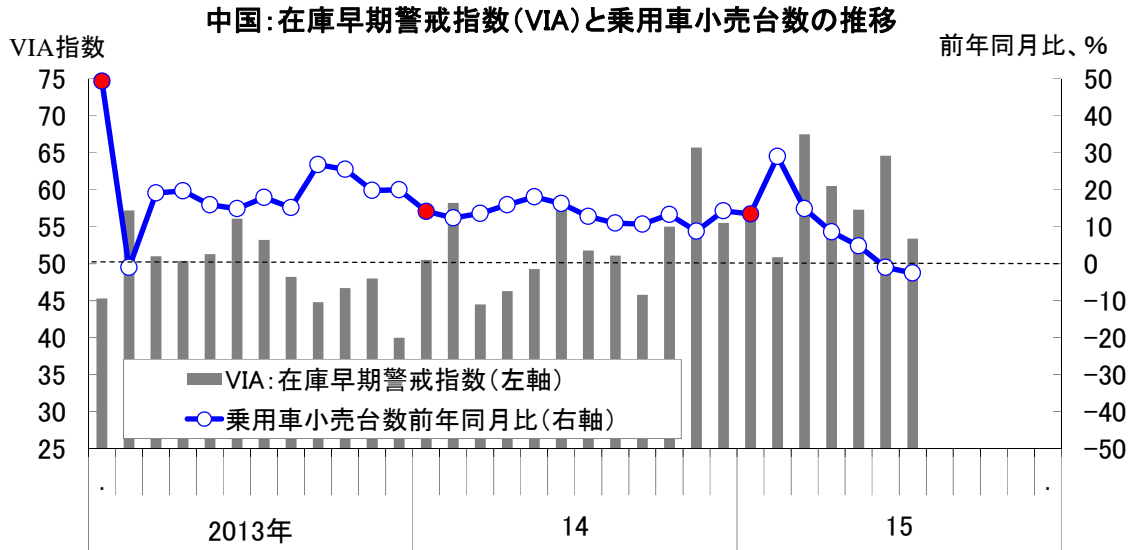


注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2：ノックダウンを除く。
 注3：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所：財務省「貿易統計」より作成



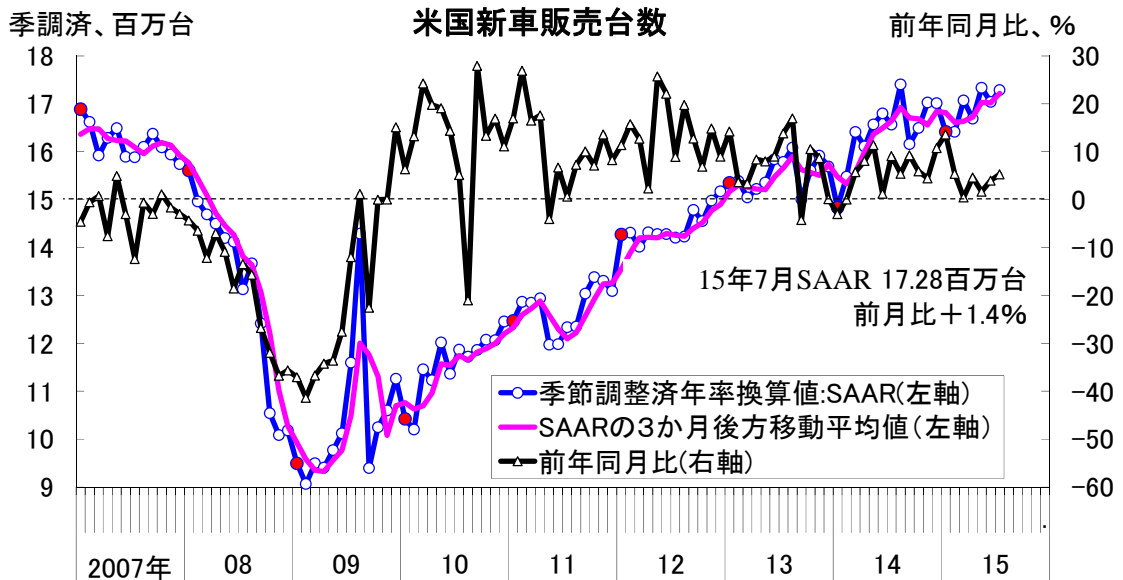
注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2：ノックダウンを除く。
 注3：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所：財務省「貿易統計」より作成

図表 12 中国自動車販売（小売）は2か月連続で前年割れし、市場成長の失速が止まらない状況



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: 乗用車小売台数は微型バン(軽自動車バン)を除く。
 注3: VIAは50を下回る場合がディーラーでの在庫水準が適正、50を上回る場合が在庫過多。
 出所: 中国汽车流通協会(CADA)、全国乗用車市場情報連席会(CPCA)データより浜銀総合研究所作成

図表 13 米国新車販売は金利引き上げ後の需要減少リスクに要警戒

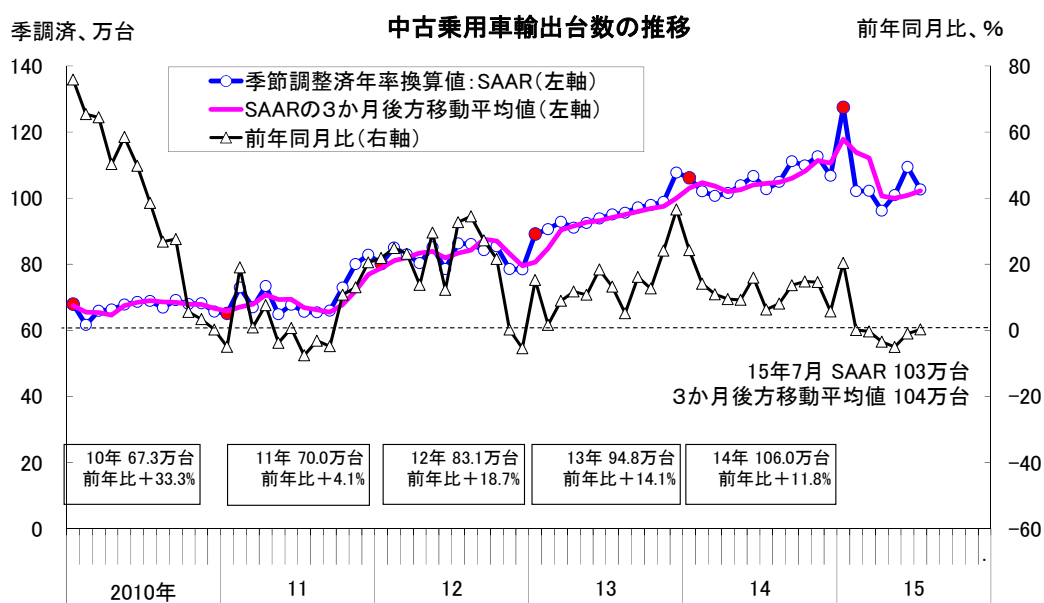


注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米国センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: Autodata、Bloombergのデータより作成

7月中古乗用車輸出台数（SAAR）は減少したが、年率100万台を超える水準が続く

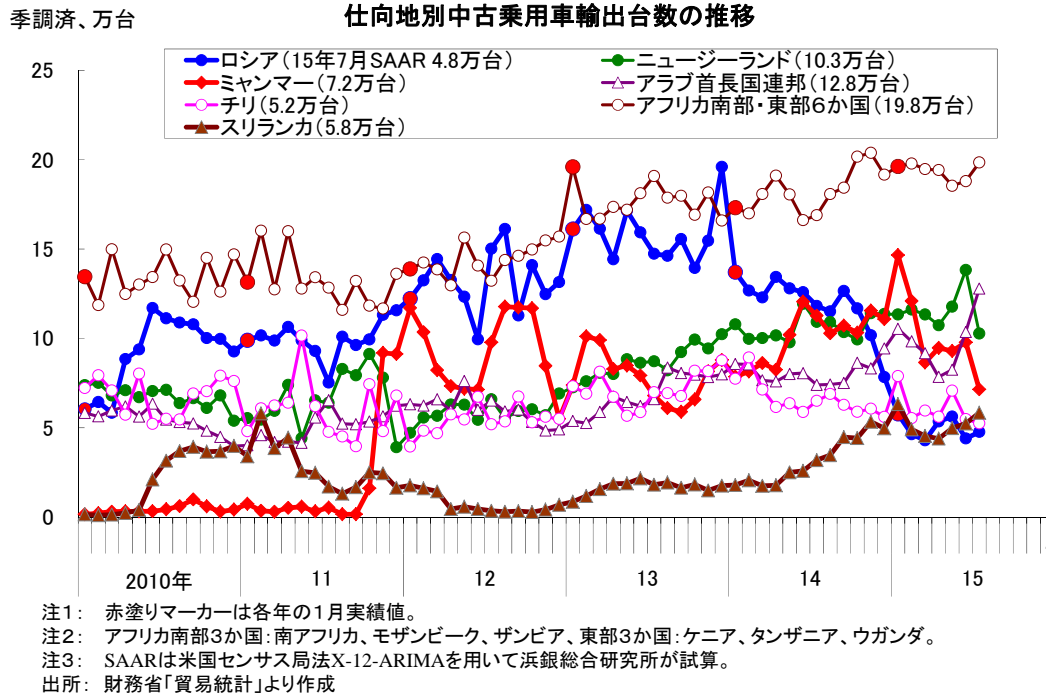
- 中古乗用車の輸出市場は日本の自動車産業において数少ない高成長市場であり、新車ディーラー含め、国内の自動車流通業者の多くが中古乗用車の輸出市場の動向に注目している。7月中古車輸出台数（SAAR）は前月比6.2%減の103万台と2か月連続の増加となった6月から減少したが、年率100万台を超える水準が続き、3か月後方移動平均値は3か月連続で増加している（図表14）。
- 同市場が注目されているのは、中古乗用車の輸出動向が、国内の中古車流通価格と新車販売に影響を与えるからである。中古車輸出が減少すると、国内の中古車供給量が増加し、国内流通価格の下押し要因となる。流通価格の下落は中古車下取り価格の下落に繋がり、国内新車販売の足かせとなる。
- 7月中古乗用車輸出を仕向地別で見ると、ニュージーランド向け及びミャンマー向けの輸出台数が減少した一方、アフリカ向け、スリランカ向け、アラブ首長国連邦（UAE）向けの輸出が増加したことが、全体の台数減少を和らげたかたちである。（図表15）。なお、中古車流通業者の間で高成長市場として注目されている、スリランカ向けの7月の輸出台数は年率5.8万台となり、仕向地別でロシア向け（2014年輸出台数国別順位で1位）とチリ（同5位）を上回る規模となった。
- なお、中古乗用車の輸出車両単価（FOB平均価格）は上昇傾向にあり、7月の単価は前月比7%上昇の71万円と2か月連続の増加となった（図表16）。単価上昇の背景には、ミャンマー向け中古車市況の改善と、高価格車両の需要地であるスリランカ向けの輸出が堅調に拡大していることがある。7月中古乗用車輸出の市場規模は年率で約7,300億円（＝SAAR103万台×FOB平均単価71万台）となり、2014年実績6,013億円を上回る規模で推移している。

図表14 7月中古乗用車輸出台数は前月比で減少したが、SAARは100万台を超える水準が続く

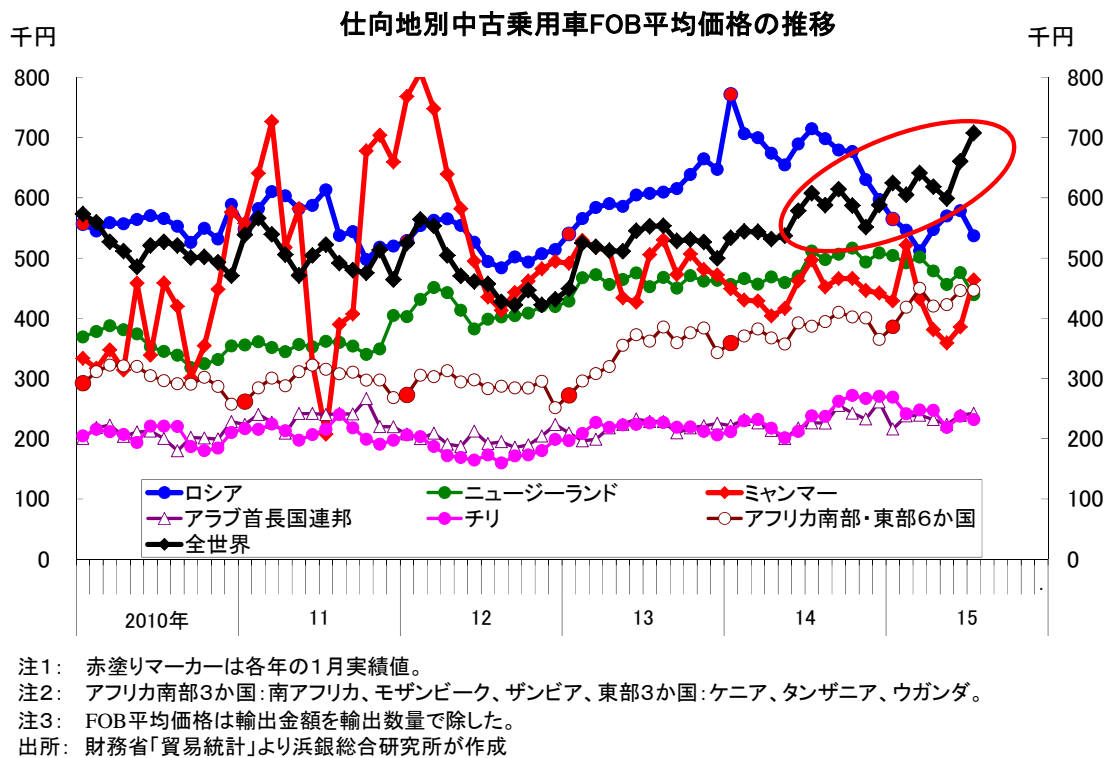


注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米国センサス局法X-12-ARIMAを用いて浜銀総合研究所が試算。
 出所: 財務省「貿易統計」より作成

図表 15 7月はアフリカ、スリランカ、UAE 向け輸出増加が全体の減少を和らげた



図表 16 中古乗用車の平均輸出単価は上昇し続けている

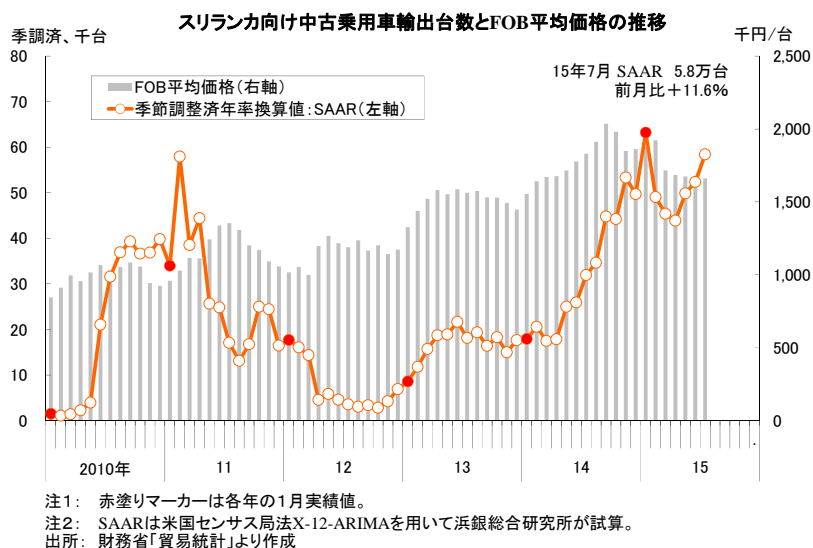


スリランカ向け中古乗用車輸出の拡大が続く

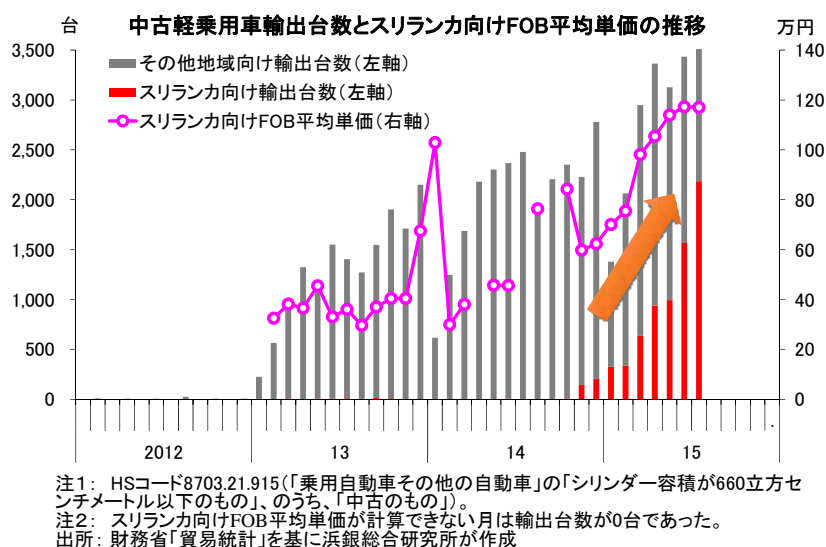
- ・中古車流通業界において注目されている、スリランカ向け中古乗用車輸出数の拡大が続いている。7月の中古車輸出台数（SAAR）は前月比11.6%増の5.8万台と3か月連続の増加となり、2015年1月（6.3万台）に次ぐ過去2番目の水準を記録した（図表17）。
- ・また、昨年末より急増している中古軽乗用車の7月の輸出台数は2,185台となり、過去最高記録の更新が続いている（図表18）。ちなみに、7月のスリランカ向け中古軽乗用車輸出台数は、同月の日本国内28府県の新車販売台数を超えるまでの規模になった（図表19）。
- ・スリランカ向けの7月の中古車輸出金額（登録乗用車＋軽乗用車）は年率で約960億円（＝SAAR5.8万台×FOB平均価格166万円）となり、日本からの中古乗用車輸出市場の13%（960億円/7,300億円）も構成する市場となっている。前述のように、中古乗用車輸出市場の市況に影響を与えるまでの規模になっており、同国向け輸出が今後も拡大し続けるかどうか引き続き注目していきたい。

注：スリランカ向け中古乗用車輸出の詳細については、2015年8月4日発行「国内新車販売統計（2015年7月）」の10～12ページを参照されたい。（<http://www.yokohama-ri.co.jp/html/report/pdf/shinsha1507.pdf>）

図表17 スリランカ向け輸出が3か月連続の増加



図表18 スリランカ向け中古軽乗用車輸出の増加が続く



図表 19 7月のスリランカ向け中古軽乗用車輸出台数は28府県の新車販売台数を超えた

都道府県別軽乗用車販売台数とスリランカ向け中古軽乗用車輸出台数の推移

		2015年							2015年	2014年
		1月 (台)	2月 (台)	3月 (台)	4月 (台)	5月 (台)	6月 (台)	7月 (台)	1~7月累計 (台)	暦年累計 (台)
1	愛知	9,368	11,539	14,226	5,881	6,617	8,055	6,334	62,020	119,478
2	埼玉	7,222	8,148	10,828	4,669	5,125	5,605	5,720	47,317	89,679
3	静岡	6,465	7,834	10,212	3,949	4,322	5,344	4,914	43,040	77,487
4	福岡	5,659	6,889	9,279	3,724	3,787	5,070	4,219	38,627	72,290
5	大阪	5,148	6,359	8,207	3,725	3,979	5,185	4,694	37,297	74,418
6	千葉	5,617	6,037	8,577	3,585	3,932	4,802	4,671	37,221	73,397
7	北海道	4,356	5,407	9,565	3,833	4,106	5,157	4,255	36,679	71,713
8	兵庫	5,292	6,456	7,921	3,653	3,733	4,786	4,267	36,108	68,521
9	神奈川	5,133	5,910	7,846	3,676	3,814	4,834	3,970	35,183	68,038
10	東京	4,329	5,007	6,080	3,043	3,293	3,957	3,846	29,555	55,488
11	広島	3,897	4,437	6,573	2,539	2,732	3,532	3,032	26,742	52,485
12	新潟	3,290	4,463	7,950	2,323	2,396	3,381	2,853	26,656	49,915
13	茨城	3,952	4,619	5,736	2,262	2,460	3,145	2,964	25,138	47,083
14	長野	3,249	3,918	6,404	2,367	2,522	2,929	2,512	23,901	47,056
15	三重	3,118	3,956	5,364	1,951	2,194	2,569	2,453	21,605	41,877
16	群馬	3,221	3,565	4,961	1,881	2,318	2,990	2,595	21,531	43,528
17	岡山	3,230	3,778	5,010	1,930	2,049	3,022	2,489	21,508	40,363
18	岐阜	2,970	3,709	5,257	2,179	2,096	2,718	2,517	21,446	39,016
19	宮城	3,066	3,246	4,826	2,072	2,107	2,635	2,301	20,253	38,644
20	栃木	2,994	3,294	4,413	1,758	1,792	2,446	2,168	18,865	36,350
21	熊本	2,552	3,330	4,180	1,874	1,958	2,512	2,152	18,558	36,916
22	京都	2,549	3,019	4,331	1,689	2,008	2,449	2,172	18,217	35,018
23	山口	2,687	3,107	4,202	1,662	1,664	2,481	2,147	17,950	35,245
24	福島	2,179	2,657	4,094	1,802	1,804	2,201	1,608	16,345	31,682
25	鹿児島	2,443	2,683	3,462	1,669	1,698	1,853	1,846	15,654	29,256
26	滋賀	2,162	2,703	4,026	1,467	1,612	2,031	1,619	15,620	30,431
27	長崎	2,129	2,317	3,179	1,428	1,518	2,144	1,749	14,464	29,181
28	沖縄	1,784	1,918	3,042	1,566	1,489	1,896	1,873	13,568	24,965
29	大分	2,026	2,284	2,850	1,285	1,338	1,656	1,574	13,013	25,200
30	愛媛	1,816	2,293	2,902	1,101	1,156	1,789	1,279	12,336	23,357
31	宮崎	1,805	2,175	2,602	1,326	1,320	1,584	1,431	12,243	23,607
32	青森	1,526	1,821	3,186	1,324	1,312	1,612	1,395	12,176	25,424
33	秋田	1,503	1,889	3,218	1,254	1,168	1,591	1,359	11,982	21,625
34	富山	1,323	1,960	3,453	973	1,048	1,454	1,285	11,496	21,784
35	香川	1,599	2,041	2,693	1,016	1,042	1,638	1,180	11,209	23,304
36	岩手	1,543	1,703	2,785	1,102	1,125	1,543	1,281	11,082	22,714
37	山形	1,361	1,909	2,978	1,004	1,078	1,304	1,213	10,847	20,073
38	石川	1,196	1,813	3,298	941	958	1,349	1,141	10,696	18,751
39	和歌山	1,446	1,872	2,565	983	1,052	1,250	1,162	10,330	19,252
40	奈良	1,502	1,758	2,677	958	1,026	1,275	1,112	10,308	19,774
41	島根	1,273	1,603	2,597	939	947	1,224	1,144	9,727	18,431
42	佐賀	1,311	1,513	2,216	912	993	1,248	1,059	9,252	18,952
43	福井	1,019	1,633	2,668	784	812	1,095	953	8,964	17,466
44	高知	1,220	1,375	1,954	833	900	1,055	1,014	8,351	16,277
45	山梨	1,013	1,264	2,166	824	840	1,095	996	8,198	15,082
46	徳島	983	1,336	1,897	703	731	957	806	7,413	14,763
47	鳥取	879	1,080	1,929	715	689	900	888	7,080	13,763
	スリランカ向け 中古輸出台数	324	338	636	940	993	1,567	2,185	6,983	367

注： 同期間に販売台数がスリランカ向け中古輸出台数と同数ないし下回った都道府県を赤字ハイライト。
出所： 全国軽自動車協会連合会、財務省「貿易統計」を基に浜銀総合研究所が作成

担当： 調査部 産業調査室 深尾三四郎

Tel: 045-225-2375

Email: fukao@yokohama-ri.co.jp

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。